

- ① 「現代語訳」 「友人とつきあうときには、どんなことを心がけたらよいだろうか。」と聞いたところ、「友人の長所を友とするとよい。武芸を好む友人なら、それ（＝武芸）を友とし、歌を詠む友人ならそれ（＝歌を詠むこと）を友人とするとよい。世の中に、（自分と）同じ心の持ち主がいるということは、とてもめずらしいことだろう。ただ自分の好む方に（友人を）引き入れようとするのもむずかしい。この人はこの部分はよいけれど、この部分はよくない。（だからといって）そのよくないところを改めさせようとすることはたいそう苦しい。（けれども）自分をよく知っている友人が忠告を求めたならば、当然いつてやるべきである。そうではあるが、たびたびすることではない。つきあいの浅い友人であっても、友人という（間柄）ならば、その人の生死に関係するような大切なことならば、いつてやるべきである。ただその長所を友とすれば、つきあいにくい人もないだろう。」と答えた。
- (1) 「かなづかい」語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変えます。「まじはる」の「は」を「わ」にかえましょう。
- (2) 「内容理解」 「長所」の対義語は「短所」です。「短所」という意味を表している部分を探しましょう。
- (3) 「口語訳」 「まれ」は「とても珍しいこと。めったにないこと」の意味です。もし、ことばの意味が分からないときは、前後の文脈から判断するとよいでしょう。この場合「（自分と）同じころの人」がどうなのかを考えます。
- (4) 「空所補充」直前の「知己の人〜いふべし」と「浅き契りの」※「とが、対になっていることに注意しましょう。つきあいは浅くても、生死（か）に関わるときは、自分をよく知っている友人の時と同じように忠告した方がよい、と述べています。

- (5) 「主題をつかむ」冒頭の部分の「友とつきあうにはどんなことを心がけたらよいだろうか」という質問に対する答えをまとめましょう。「友はその長所を友とすべし」「ただその長所を友とすれば、まじはりがたき人もあらじ」と繰り返し述べられています。

- ② 「現代語訳」台風の次の日は、たいそうしみじみとしていて、趣深く感じられる。

板塀（いたび）やかきねなどが（前日の風のために）乱れていて、庭に植えた草木などもたいそう心苦しげである。大きな木なども倒れ、枝などが吹き折られてしまっているのが、萩（はぎ）やおみなえしなどの（木に比べて小さな草の）上に、横倒しになっているのが、とても予想外なことである。格子戸（こうしど）の一こま一こまの目に、木の葉をわざとしたように、こまごまと吹き入れているのは、荒かった風のしわざとはとても思えない。

- (1) 「かなづかい」 「いみじう」の部分に注意しましょう。「じう」の連母音の「iu」を「yu」にかえて、「いみじゅう」とします。
- (2) 「古典文法」イは「透垣（とぐら）などが乱れる」と読むことができるので、主語を表していることがわかります。
- (3) 「内容理解」二段落目の前半は「庭の木」、後半は「格子戸」について書かれています。それぞれの具体的な描写を細かく読み取りましょう。
- (4) 「主題をつかむ」 『枕草子』の作者である清少納言は、日常や宮廷生活での出来事を、繊細で機知に富んだ表現で、平安時代を代表する随筆を著しました。台風の次の日の季節感あふれる描写を味わいましょう。